

平成30年度(2018年度)
[平成30年4月1日～平成31年3月31日]

事業報告

目 次

平成30年度(2018年度)事業報告 (総括)	1
I. 科学技術振興に関する活動の概要	2
I-1. 研究助成	2
1. 募集・応募・選出状況	2
2. 助成件数の推移	3
3. 第34回(2018年度)マツダ研究助成一覧	4
4. 第34回(2018年度)マツダ研究助成奨励賞一覧	5
I-2. 事業助成	6
1. 募集・応募・選出状況	6
2. 助成件数の推移	7
3. 第34回(2018年度)マツダ事業助成一覧	8
I-3. 科学わくわくプロジェクト	9
II. 青少年健全育成に関する活動の概要	11
II-1. 研究助成	11
1. 募集・応募・選出状況	11
2. 助成件数の推移	12
3. 第34回(2018年度)マツダ研究助成一覧	13
II-2. 市民活動支援	14
1. 募集・応募・選出状況	14
2. 支援件数の推移	15
3. 第34回(2018年度)マツダ市民活動支援一覧	16
II-3. 感動塾・みちくさ	17
II-4. スタートラインプロジェクト	18
II-5. 第37回講演会	19
II-6. 大学寄付講義の実施概要	20
II-7. 若者×ツナグバ	21
III. 管理事項の概要	22
III-1. 役員等に関する事項	22
1. 平成31年3月31日現在の役員・評議員の名簿	22
2. 役員等の異動状況	22
III-2. 職員に関する事項	23
III-3. 理事会・評議員会等、主な活動事項	23
III-4. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項	24
III-5. 登記に関する事項	24
III-6. 附属明細書	24

平成30年度(2018年度)事業報告(総括)

当財団の設立目的である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」について次の活動を行いました。この活動のためマツダ株式会社から寄付を受け、低金利による運用収益低下の影響を最小限に抑えるとともに、最大限の社会貢献に資するべく創意工夫をしました。

まず、科学技術振興分野では、先進性・独創性のある研究に対して助成を行いました。特に、「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」に継続して注力しました。また、青少年の科学離れへの対応として、小中高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し「科学するところ」を養うことを目指した事業「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学等と連携して、実施しました。

次に、青少年健全育成分野では、市民活動との連携強化を図り、市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に絞って助成を行いました。市民活動支援は、広島・山口両県における青少年健全育成のための地域に密着した活動に助成しました。体験を通して小学生に感動を与えるプロジェクト「感動塾・みちくさ」は、(公財)広島市文化財団と共同開催しました。NPO法人ピピオ子どもセンターと連携して被虐待児の自立を支援する「スタートラインプロジェクト」事業は、支援活動をさらに充実させました。また、2017年度より開始した“若者自立支援”をテーマとした「若者×ツナグバ」事業を推進しました。大学講義では、広島女学院大学にて単位互換「ボランティア論」講義を行いました。講演会では、東儀秀樹氏を講師としてお招きし、「雅楽の価値観と僕の生き方、そして若者へ」と題してお話をいただきました。850名の聴講者があり、好評を得ました。

科学技術振興関係

① 研究助成

機械、電子・情報、化学系材料、物理系材料の4分野を対象に31件3,100万円の助成を行いました。さらに、このうち特に優れた研究4件に「マツダ研究助成奨励賞」として副賞50万円、計200万円を追加助成しました。(国内/公募)

② 事業助成

研究者等による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に15件200万円の助成を行いました。(中国地方/公募)

③ 科学わくわくプロジェクト

教科書にとらわれない高度な科学体験により、小中高生の「科学するところ」を養うことを目指す「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学等と連携して実施しました。(連携事業/参加者公募)

青少年健全育成関係

① 研究助成

青少年健全育成に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究6件に計400万円の助成をしました。(国内/公募)

② 市民活動支援

青少年の心豊かな成長の一助となる地域に密着した民間の非営利活動30件に計800万円の支援をしました。(広島県・山口県/公募)

③ 感動塾・みちくさ

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて、科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、(公財)広島市文化財団との共催で実施しました。(連携事業/参加者公募)

④ スタートラインプロジェクト

被虐待児等の自立を支援することを目的に、NPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実を支援する事業を実施しました。(連携事業/公募)

⑤ 講演会の開催

当財団の活動主旨を広く知っていただく活動の一つとして、東儀秀樹氏を講師に迎え実施しました。

⑥ 大学寄付講義

広島女学院大学にて、単位互換「ボランティア活動」の講義を行いました。

⑦ 若者×ツナグバ

若者が希望を獲得するための活動支援を、市民活動団体等との緩やかなネットワーク型の連携により実施しました。

事業の概要を以下に記します。

I. 科学技術振興に関する活動の概要

I-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第34回(2018年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

(b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③化学系材料、④物理系材料の4分野に係わる先進的・独創的な研究。

(c) 募集方法

公募

(d) 助成金総額

3,100万円

(e) 助成件数

31件 (1件あたり100万円)

(f) 助成期間

1年または2年

(g) 募集期間

2018年4月16日～5月31日

(h) マツダ研究助成奨励賞

マツダ研究助成対象の中から若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした研究に対して授与する。

① 副賞(追加助成金)

50万円/件

② 追加助成金総額・件数

200万円、4件

(2) 応募状況

締切りまでに合計406件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

・中部以東 235件(58%)

・関西以西 171件(42%)

(b) 分野別

・機械 88件(22%)

・電子・情報 86件(21%)

・化学系材料 124件(30%)

・物理系材料 108件(27%)

(c) 若手研究者(35才以下)

151件(37%)

(3) 助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会(7月27日、28日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として31件、研究助成奨励賞候補として4件が選出され、第35回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成贈呈書の贈呈

2018年10月に申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移－科学技術振興関係－

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第34回) 2018年度	第33回 2017年度	第32回 2016年度
応募件数(件)	406	404	453
助成件数(件)	31	31	33
助成比率(%)	7.6	7.7	7.3
助成金総額(万円)	3,300	3,300	3,500

(地域別状況)

地域	2018年度		2017年度		2016年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東(件)	235	17	207	16	253	24
近畿(件)	72	6	80	6	82	5
中国・四国(件)	51	4	62	4	68	3
九州・沖縄(件)	48	4	55	5	50	1
合計(件)	406	31	404	31	453	33

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数

(分野別状況)

分野	2018年度		2017年度		2016年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
機械(件)	88	7(3)	86	6(3)	104	8(5)
電子・情報(件)	86	7(3)	88	7(3)	100	7(2)
化学系材料(件)	124	9(6)	121	10(5)	131	10(8)
物理系材料(件)	108	8(8)	109	8(1)	118	8(6)
合計(件)	406	31(20)	404	31(12)	453	33(21)

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時
()内の数値は循環・省資源に寄与する研究で、内数

3. 第34回(2018年度)マツダ研究助成一覧
—科学技術振興関係—

助成対象研究の概要は、以下の通りです

◇印付きは循環・省資源に係わる研究

S印付きは研究助成奨励賞受賞

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【機械】		
マイクロセンサ試作プラットフォームの構築に向けたマスクレス垂直深堀大気圧プラズマエッチング法の開発	中澤 謙太 静岡大学 工学部 助教	100
本研究ではMicroelectromechanical Systems (MEMS) 技術を用いるマイクロセンサを試作可能なプラットフォームの実現を目指し、大気圧プラズマを用いたマスクレス垂直深堀エッチング法の開発を行う。本研究での目的は従来技術でのMEMS試作において避けられなかった高価な設備やコスト、複雑・多数のプロセス、多くのノウハウの要求といった諸問題に対し、低コスト・迅速・容易に試作が可能なプラットフォームの実現に向けた中核技術のエッチング法を確立することである。		
医療用点滴投与量の高精度制御を可能にする点滴静注量計測用マイクロ流量センサの開発	長谷川 義大 広島市立大学 大学院情報科学研究科 助教	100
本研究では、医療点滴投与時の輸液の流れを高精度に計測できる点滴静注量計測用マイクロ流量センサを世界に先駆けて研究開発する。具体的には、微細化が可能なMEMS技術を用いて細径チューブに実装可能なマイクロ流量センサを実現する。なお、使い捨て、安全性を重視する医療現場使用ということを前提とし、安価で、かつ可動部構造を一切必要としない熱式原理に基づいたチューブ状点滴静注量計測用マイクロ流量センサの作製技術を確立するとともに、作製したセンサの微小流量領域での計測特性を明らかにする。		
多相場数値解析手法を用いた高温自然対流場における粒子輸送特性の解明	◇ 鳥生 大祐 京都大学 学術情報メディアセンター 助教	100
例えば粉体の乾燥や食品の加熱処理、エアロゾルの流動制御において重要な高温自然対流場における粒子の輸送特性を明らかにすることを目的とし、そのための多相場数値解析手法の構築とスーパーコンピュータを用いた大規模数値実験を行う。本研究では、特に粒子形状や大きな温度差によって生じる流体の密度変化の影響に着目し、各粒子に働く流体力や接触力から粒子の輸送メカニズムを明らかにする。また、様々な温度差、粒子形状の条件下における臨界レイリー数の調査や熱伝達率の測定も併せて行う。		
大規模自然対流の革新的制御システムの開発	◇ 古川 琢磨 八戸工業高等専門学校 助教	S 150
大規模自然対流は無動力で生じる現象であり、またその駆動力も大きい。そのため省エネルギー社会の達成が急務となっている現代社会において本対流現象の積極的な利用は重要不可欠である。より安全かつ持続可能な社会を形成するために、本研究では大規模自然対流の革新的な制御システムを開発することを目的とする。本目的を達成するために、大規模系の支配因子となるふく射伝熱が対流場に及ぼす影響を数値解析および実験の観点から議論する。そして大規模系で生じる自然対流の乱流場遷移過程やその物質・伝熱の制御可能性について検討する。		
溶融パラフィンの滴下実験による液滴の凝固・密着プロセスでの変形破壊機構の解明	◇ 阪口 基己 東京工業大学 工学院 准教授	100
溶射プロセスをモデル化した溶融パラフィンの滴下実験により、基材に衝突した液滴の凝固・密着過程での残留応力の発達挙動を可視化し、凝固した皮膜の割れ・剥離挙動に与える影響を解明する。①液滴材質、②液滴温度、③液滴衝突速度、④基材材質、⑤基材予熱温度、⑥基材粗さの影響をモデル実験により個別に抽出するとともに、液滴の衝突・流動・凝固・密着を再現した粒子法シミュレーションと熱構造連成有限要素解析により凝固・密着プロセスでの変形破壊機構を定量化する。		
柔軟展開宇宙構造物の形状予測手法の探求と折紙展開構造による実証	有田 祥子 静岡大学 工学部 助教	100
膜やケーブル等、極めて柔軟な構造システムは、宇宙科学・宇宙利用に革新をもたらすと強く期待されながら、形状予測と設計の難しさから実現しにくいシステムとなっている。本研究は、柔軟構造物の変形の要でありながら、未だ明らかになっていない座屈メカニズムと座屈後形状の予測手法を、理論構築・数値解析・地上実験により明らかにする。更に、その理論の実証として、最先端の研究対象である展開折紙構造物に適用し、宇宙機として設計することで、宇宙工学、折紙工学、双方の学術分野の開拓を目指す。		
火星飛行機への適用を目指した高空力特性・高収納特性・高突風耐性な柔軟膜翼の研究開発	藤田 昂志 東北大学 流体科学研究所 助教	100
将来の火星探査手法として、飛行機の利用が検討されている。この飛行機の翼には、低レイノルズ数流れでの高い空気特性のみならず、火星の希薄大気で飛行可能な翼面積、火星に輸送可能なコンパクト性、火星の強い突風への耐性が求められる。本研究ではこの解決策として、トビウオやコウモリのような柔軟膜翼の利用を検討する。風洞実験による力計測、変形計測、流れ場可視化の3種の結果を組み合わせることで、柔軟膜翼に対する、①3次元変形、②翼型依存性、③通気性、④主流乱れ度、の各影響を明らかにする。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【電子・情報】		
AC電源からのハムノイズを用いて色々な物をタッチインタフェース化する技術の実用化研究	岡本 正吾 名古屋大学 工学研究科 准教授	100
住環境や職場環境に存在する机・棚・壁などのさまざまな物体をタッチ入力インタフェースに変換させることができる技術がある。必要なものは壁の中などに埋設されているAC電源である。電源から発せられるハムノイズによってヒト体内に生じる電流は、手指を介して物体に流入する。これを適切に捉えることで、石材のような半導体から布(特殊塗装後)のような柔軟物までタッチインタフェースと化す。本研究は、その実用化のためのジェスチャー(なぞる動作)認識機能および集積回路開発に関する課題である。		
トラフィック変動に追従する動的スモールセルネットワークにおける無線通信特性の評価及び改善 ◇	丸田 一輝 千葉大学 大学院工学研究院 特任助教	100
これまでに、トラフィック変動に応じて基地局が動的に移動する自律型ネットワークを提案し、設備コストの観点から固定設置型の基地局に対する優位性を示してきた。本研究提案では、ユーザエクスペリエンスに直接関わる通信の観点からシステムを具体化することを目的とし、基地局-ネットワーク間及び基地局-ユーザ間を検討対象とする。低遅延化を実現する第5世代移動通信規格(5G)のシステムパラメータの導入や車両密度を考慮し、無線区間における接続時間を定量化するとともにその改善手法を確立する。		
福祉施設と連携したIoT水耕栽培連携システムの研究開発 ◇	亀濱 博紀 沖縄工業高等専門学校 助教	100
福祉施設での就農者支援に着目したIoT水耕栽培システムの研究開発に取り組む。まず、栽培物を安定供給するため多数測定ポイントからデータをIoT技術で取得しAIで解析する。次に、上記ベースに、障がい者や高齢者が安心して働き、就農者の状況に合わせて分かりやすく作業工程を示すアプリ開発と各施設に設置しやすい形態の水耕栽培キットを開発する。最終的に、顧客要求や各支援施設の設備・興味・スキルに応じ水耕栽培をコントロールし、全体の効率化と就農者のやがいの向上と維持を行う水耕栽培システムを構築する。		
ニューラルネットの軽量化のためのフィードバック量子化	南 裕樹 大阪大学 大学院工学研究科 講師	100
ディープニューラルネットを携帯端末のようなハードウェア資源の少ないデバイスに実装するには、モデルの軽量化が必要である。これを実現するために、本研究では、モデルの入出力関係をできるだけ保存するように、ニューラルネットの結合重みを連続値から離散値に変換する問題を考える。そして、ある場所で生じた量子化誤差をまだ量子化していない場所に拡散(フィードバック)することで、重要な情報をできるだけ限り保存するという「動的量子化器」のアイデアをベースとした新しいタイプの量子化器を提案する。		
証明問題解決支援システムにおける問題の自動生成とその利用	倉山 めぐみ 函館工業高等専門学校 准教授	100
カード選択方式を用いた証明問題解決支援システムにおいて、現在、手作業にて行っている問題の登録(問題文、証明、カードセット等)の自動生成、特に、カードセットの生成を目指す。カードセットを自動で生成することで、証明の診断の際に、カードに書かれている単文の内容についても指摘することが出来るようになる。また、本解決支援システムを用いて、証明問題の学習における学習の可能性について調査する予定である。		
オープン型磁気ナノ粒子イメージングシステムの開発	笹山 瑛由 九州大学 大学院システム情報科学研究科 准教授	100
ナノメートルサイズの強磁性体を高分子で被覆し、その表面に検査試薬等を結合したものは磁気マーカーと呼ばれている。この磁気マーカーを体内の疾患部に蓄積させ、その位置を体外から検出し可視化する技術(磁気ナノ粒子イメージング、MPI)は、新しい体内診断技術として期待されている。現在のMPI研究では強い傾斜磁場を利用するが、それを人体サイズで実現するのは困難である。本研究では、傾斜磁場を利用しない新原理のMPIシステムを提案する。これによりシステムが簡素化され、オープン型MPIシステムの構築ができる。		
加齢や疾患による多様な身体機能低下に対応する、成長型アシストデバイスの開発 ◇	山本 征孝 広島大学 大学院工学研究科 研究員	S 150
超高齢社会を迎えた日本では介護を必要とする高齢者の割合が増加している。生活の質の向上や健康寿命の延伸において、高齢者が長期間自立して歩行できることは極めて重要な要素である。近年では、様々なロボットアシストデバイスが考案されており、一定の治療効果を有している。しかし、その多くが駆動のための装置が大きく、実社会での使用が困難である。そこで、本研究では軽量、安価、省エネルギー型の歩行アシストデバイスを作成し、さらに利用者の身体機能変化に対応できる成長型のアシストデバイスを開発する。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【化学系材料】		
光捕集アンテナを基盤とする光エネルギー変換と人工光合成への応用展開 ◇	重光 孟 大阪大学 大学院工学研究科 助教	100
石油や天然ガスなどの有限のエネルギーに依存している人類にとって、太陽光などの新たなエネルギー源の開拓と利用は必須の課題である。そのため、太陽光を電気や化学エネルギーへと変換する『人工光合成』が活発に研究されている。しかしながら、その実用化に向けて、光の捕集能やエネルギー変換効率の向上が大きな課題となっている。本研究では、高効率に光を捕集し、そのエネルギーを一点に集約できる『人工光捕集アンテナ』を創出し、光エネルギーの革新的な利用技術を開拓する。		
高効率なリチウムイオン伝導を実現する無溶媒型液晶性大環状化合物の機能評価	河野 慎一郎 名古屋大学 大学院理学研究科 講師	100
軽量化が期待されているリチウム二次電池の開発において、高温で発火する危険性を伴う電解液や有機溶媒を必要としない、安全で環境負荷の低い電池材料の開発が求められている。しかし、電解液等がなくても、イオンが流れる経路が分子レベルで勝手に組み上がる「自己組織化」を巧みに利用すれば、無溶媒条件下での高効率なイオン伝導性物質を構築することができる。本申請研究では、あらゆる表面形状を持つ素材の上でも被覆可能(プリンタブル)で、かつ高効率イオン伝導性を持つ液晶性複合材料の開発を目指す。		
交番磁界中で自己発熱するスピネル型セラミクス複合粒子の開発	平澤 英之 新居浜工業高等専門学校 准教授	100
癌の誘導焼灼治療法を実用化するため、交流磁界中で著しく自己発熱する磁性ナノ粒子の開発が望まれている。本研究では、スピネル型フェライトの中で特異的に発熱することを発見しているMgFe ₂ O ₄ 粒子の最適な合成法を確立するとともに、金属コーティングによる複合化を行なうことで過電流による発熱効果を追加した高発熱セラミクス複合粒子を開発する。また、現在厳密に解明されていない交番磁界中での発熱機構を明らかにするため、ロシア合同原子核研究所での中性子線回折を行ない、磁気構造解析から発熱因子を特定する。		
光・電場に鋭敏に応答するコレステリック液晶マイクロカプセルの創製 ◇	キム ユナ 北海道大学 電子科学研究所 助教	100
本申請研究では、全方位にわたって選択反射の色と強度を光照射と±1~2V程度の非常に低い電圧印加により瞬時かつ自在にコントロールできるマイクロカプセルを創製する。コア部として、光照射により選択反射色を大きく変化させるコレステリック液晶を用いる。シェル部には、両親媒性モノマーをコア部である液滴上で重合させて得られるエレクトロクロミックポリマーを用いる。効率的にカプセル化する方法を確立し、得られたマイクロカプセルがディスプレイや調光ガラスなどの実用的な応用展開が可能であるかを検討する。		
大気汚染物質の低環境負荷な酸化分解を目指した無機アニオン複合型光触媒の設計 ◇	福 康二郎 関西大学 環境都市工学部 助教	100
大気汚染問題の原因である揮発性有機化合物(VOCs)の低環境負荷かつ高効率な分解無害化を実現するため、光触媒作用により発生する活性酸素種の酸化剤特性を最大限に向上できる光触媒システムの構築を目指す。様々な無機アニオンを固定化することが可能な層状複水酸化物(LDH)と光触媒を融合し、光触媒上で発生する活性酸素種をLDHに固定化した無機アニオンと反応させることで、VOCsの酸化分解へ効果的に働く過酸化物質を系中で合成・利用できる『無機アニオン複合型光触媒』の設計を目指す。		
高機能接着を目指した材料界面における構造不均一性の解明 ◇	藤井 義久 三重大学 大学院工学研究科 准教授	100
近年、省エネルギー・省資源の要請により自動車や航空機などの移動体の軽量化に資する異種材の接着・接合技術の開発が展開されている。一方、接着に重要な材料界面ではバルクと異なる分子構造を取ることが知られているが、その詳細は十分に明らかにされておらず、接着の高機能化には至っていない。そこで本研究では、接着界面における構造不均一性と物性変化に着目し、量子ビームと力学強度試験を駆使して界面選択的に構造・物性解析を行い、材料界面の構造不均一性を明らかにし、高機能接着界面の創成を目指す。		
界面活性剤の選択的被覆を基軸とした元素精製を指向するナノ結晶抽出法の開発 ◇	伊村 くらら お茶の水女子大学 理学部 講師	S 150
貴金属ナノ結晶は触媒としての利用が期待され、近年では合金化による飛躍的な性能向上が図られている。しかし、金属元素組成のばらつきが生じやすく機能の最大化へ結び付いていない問題がある。本研究ではこれを克服するため、ナノ結晶を金属元素の違いから分別する方法の立脚を目指す。結晶表面を被覆する界面活性剤の分子膜を構築し、金属元素の異なるナノ結晶を水と油で振り分けて抽出する独自のシステムを作る。新しい分別抽出法から、環境負荷低減をもたらす新しい触媒の開発がはじまることを見込んでいる。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
<p>新規テンプレートを用いる構造が制御された中空微粒子合成プロセスの開発と熱移動特性の評価 ◇</p> <p>内部に空間を持つ中空微粒子は、高断熱性、低密度、低屈折率、高比表面積といった中空粒子とは異なる性質を有する。本研究では、中空構造を持つ微粒子材料において、「新規テンプレートを用いる構造が制御された中空微粒子合成プロセスの開発と熱移動特性への応用」に取り組む。具体的には、(1)これまでにテンプレートとして用いられたことがないリサイクル可能なポリマー粒子を用いた中空微粒子の新規合成プロセスの確立および、(2)中空構造を持つナノプレートの合成と断熱特性評価について検討する。</p>	<p>荻 崇 広島大学 大学院工学研究科 准教授</p>	<p>100</p>
<p>分子内水素結合の切断を鍵とする応力感知メカノクロミックエラストマーの創製</p> <p>各種材料の引っ張り、切断等に伴うストレス分布を高感度に検出することのできる、発光性エラストマー材料の創製を行う。具体的には、機能性色素(ポルフィセン)を高分子材料の架橋点に組み込んだゴム材料を合成する。これに引っ張り、圧縮等の巨視的な力学刺激を与える事により、ポルフィセン内部の分子内水素結合(NH-N)の切断を誘起することにより、穏やかな外部刺激によって発光特性がOFF→ONに切替え可能な圧力感知材料の創製を達成する。</p>	<p>小野 利和 九州大学 大学院工学研究院 助教</p>	<p>100</p>

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【物理系材料】		
低環境負荷溶媒を用いた大面積有機結晶の形成と高性能有機トランジスタへの応用 ◇	小野島 紀夫 山梨大学 大学院総合研究部工学域 准教授	100
本研究では、低分子/ポリマーブレンドおよび環境にやさしく人体に害のない溶媒を用いた印刷技術により大面積で高品質な有機結晶を形成し、さらに自己組織的に形成された相分離界面を利用することで高性能な有機トランジスタを作製する。この溶媒を用いることで低分子/ポリマーブレンドが高速に相分離されるため、印刷プロセスに重要となる低環境負荷で高速(ハイスループット)な有機デバイスの製造ができ、プリントド有機エレクトロニクス発展に大きく寄与することが期待される。		
理論限界に迫る有機太陽電池の実現 ◇	伊澤 誠一郎 自然科学研究機構 分子科学研究 物質分子科学研究領域 助教	100
有機太陽電池は安価、軽量化、フレキシブルなどの利点から、将来のエネルギー変換デバイスとして注目を集めている。しかし、その性能は、出力電圧が低いことが原因で最高効率が11%程度と、理論限界に近い性能を示す高効率無機太陽電池のGaAsの28%比較すると大幅に劣る。研究代表者は超高移動度分子を用いた新たな有機太陽電池で理論限界に迫る高い出力電圧が得られることを見出した。この太陽電池の特徴的な光電変換過程を理解し分子設計指針を得ることで、理論限界効率に迫る有機太陽電池の実現を目指す。		
触媒粒子とカーボン粒子の複合化による高性能酸素発生反応用触媒の開発 ◇	大野 智也 北見工業大学 工学部 教授	100
充電可能な空気電池開発を目指し、放電反応(酸素還元反応)と充電反応(酸素発生反応:OER)に適用可能な二元機能触媒粒子を液相法により作製する。また電極となるカーボン粒子の空気極作製用インク内での静電反発力を、粒子表面の化学修飾により制御し、触媒粒子とインク内でヘテロ凝集させることで、一次粒子レベルでの複合化を達成する。この粒子複合化により触媒粒子の有効表面積を改善し、代表的な二元機能触媒であるCo _{3-x} MnxO ₄ を用いて、高性能OER触媒として知られるRuO ₂ の2倍のOER活性を目指す。		
再生可能なポリマからなるナノ圧電ファイバの開発 ◇	石井 佑弥 京都工芸繊維大学 繊維学系 助教	100
モノのインターネット(IoT)の普及により爆発的に増加するセンサが枯渇性資源により製造され使用後に再生不能となると、持続可能な発展の妨げになってしまう。本研究課題では、植物などの循環型の資源から製造可能であり、従来の製造法よりも省エネルギーで製造可能なナノ圧電ファイバの研究を遂行する。各種再生可能なポリマから作製したナノ圧電ファイバの圧電特性と物性評価を行い、圧電性の発現メカニズムと高性能化への指針を明らかにする。		
音波を用いた新たな発電機構の開拓とその原理解明 ◇	高橋 英史 東京大学 大学院工学系研究科 助教	S 150
極性金属材料や強相関電子系材料において、音波(結晶格子の振動)によって電子輸送を制御する基礎原理の解明と、新たな基盤技術の確立を目指します。電子と格子の間の相互作用により熱を電気に変換する熱電変換発電と同様、コヒーレントな格子振動である音波を用いて電気を発生させることが可能です。本研究では、この格子の振動による力学的エネルギーを電気エネルギーに変える新規な発電技術の開拓と発電材料の創製を行います。		
グラフェンヘテロ構造を用いた光・スピン変換デバイス ◇	井土 宏 東北大学 材料科学高等研究所 助教	100
軽元素である炭素のみから構成される2次元層状物質グラフェンは、単層状態において極めて高い電気伝導を示すだけでなく、電子スピン(磁気的な情報)をマイクロメートルスケールに渡って輸送可能なことから、次世代記憶・演算素子の基幹材料として注目を集めている。本研究では、ダイカルコゲナイド系層状半導体により可視光応答性を付与した新規ヘテロ構造デバイスを実証することに挑む。接合形成技術を確認し、グラフェンベース光・スピン変換デバイスの創出に資する新デバイス原理を発信することを目指す。		
マルチバンドギャップ半導体材料を用いた人工光合成技術の開拓 ◇	田中 徹 佐賀大学 理工学部 教授	100
太陽光と水を利用して水素を生成する人工光合成は、将来の持続可能な社会の実現に向け、二酸化炭素など温室効果ガスを削減しながら、無尽蔵かつ貯蔵可能な次世代エネルギー創製技術として大きな期待が寄せられている。本研究では、従来の半導体混晶と異なりユニークなバンドエンジニアリングが可能となるマルチバンドギャップ半導体材料に着目し、人工光合成応用に適したエネルギーバンドを実現することで、これまでにない新たな人工光合成技術を開拓することを目的とする。		
可視光応答型ダブルペロブスカイト酸化物半導体薄膜の創製と光触媒物性の解明 ◇	谷口 晴香 岩手大学 理工学部 助教	100
本研究では、環境浄化や水分解などの持続可能な世界の構築に向けて実用化が期待される可視光応答型ダブルペロブスカイト型酸化物半導体物質を創製し、その基礎物性を調査し、価数揺動と関連する異常な光触媒特性の機構解明を目的とする。具体的にはBa ₂ PrBiO ₆ 母物質のBiサイトを元素置換し、母物質の組成を制御した良質粉末試料や薄膜試料を合成し、構造評価、磁気特性、光学特性及び光触媒特性の評価を行い、光触媒特性の基礎物性と高機能化の条件を解明する。		
合計	31件	3,300

第34回(2018年度)マツダ研究助成奨励賞一覧 — 科学技術振興関係 —

マツダ研究助成選考委員奨励賞は、マツダ財団設立30周年を記念して2014年度より新設されました。科学技術振興関係の助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした4件の研究に対して授与されるもので、副賞として研究助成金50万円が追加助成されます。

(註) 研究代表者役職は応募時

分野	研究題目および選考理由	研究代表者
機械	大規模自然対流の革新的制御システムの開発	古川 琢磨 八戸工業高等専門学校 産業システム工学科 助教
<p>省エネルギー社会において、無動力で駆動力の大きい大規模自然対流の積極的な利用は重要になっている。本研究は、大型建築物内の効率的な換気のための、ガス/表面ふく射 両効果による自然対流場の制御手法の開発であり、循環・省資源に大いに寄与するものである。数値解析、実験検証の両面から研究が具体化されており、またふく射伝熱による自然対流伝熱制御を目指した独創的かつ挑戦的研究に対して奨励賞を贈呈する。</p>		
電子・情報	加齢や疾患による多様な身体機能低下に対応する、成長型アシストデバイスの開発	山本 征孝 広島大学 大学院工学研究科 研究員
<p>超高齢社会を迎えた日本において、高齢者が長期間自立して歩行できることは生活の質の向上に極めて重要な要素である。本研究は、歩行アシストデバイスにおいて、実社会で利用可能な軽量、安価、且つ高い省エネルギー性の実現とともに、利用者の身体機能の変化に合わせ、アシスト部位、力、タイミングを変更可能なデバイスを提案するものである。高齢者や障害者のより豊かで快適な社会生活の提供に期待が持て、その独創的、且つ新規性の高い研究内容に対して、奨励賞を贈呈する。</p>		
化学系材料	界面活性剤の選択的被覆を基軸とした元素精製を指向するナノ結晶抽出法の開発	伊村 くらら お茶の水女子大学 理学部 講師
<p>貴金属ナノ結晶は触媒としての利用が期待され、合金化による飛躍的な性能向上が図られているが、金属元素組成のばらつきが生じやすく機能の最大化に結び付いていない。本研究では、結晶表面を被覆する界面活性剤の分子膜を構築し、金属元素の異なるナノ結晶を抽出する独自のシステムを作る。この新しい分別抽出法が確立すれば、狙いの貴金属ナノ結晶の合成、環境負荷低減をもたらす高性能触媒の開発など、様々な技術革新が期待でき、その優れた研究内容に対して奨励賞を贈呈する。</p>		
物理系材料	音波を用いた新たな発電機構の開拓とその原理解明	高橋 英史 東京大学 大学院工学系研究科 助教
<p>本研究は、極性金属材料や強相関電子系材料において、音波(結晶格子の振動)によって電子輸送を制御する基礎原理の解明と、新たな発電機構の開拓を目指したものである。この技術は、コヒーレントな格子振動である音波を用いることで、高い電気伝導率と低い熱伝導率の実現という矛盾した条件を解消し、力学的エネルギーを電気エネルギーに変える新たな発電技術と発電材料の開拓につながるブレークスルー技術である。生体内のデバイス電源等の幅広い応用が期待でき、その先進性と独創性に富む秀逸な研究内容に対して奨励賞を贈呈する。</p>		

I - 2. 事業助成

1. 募集・応募・選出状況

第34回（2018年度）は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

学会・研究機関等が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する事業・研究会等で、科学技術振興に有意義と認められるものに対し、その費用の一部もしくは全額を助成します。

(b) 助成対象

中国地方の大学（含、附属研究機関）、高等専門学校、民間の非営利団体に所属し、申請事業の開催責任者または出版物の主なる著者によって、2018年6月から2019年5月に実施される

- ・ 「科学体験」事業の開催
- ・ 学会・シンポジウム等の「科学体験」推進に関する研究会の開催
- ・ 「科学体験」に関する研究成果出版物の刊行、教材等の試作
- ・ その他、「科学体験」に関し財団が有意義と認めるもの

(c) 募集方法

公募

(d) 対象地域

中国地方

(e) 助成金総額

200万円

(f) 助成件数

10～15件

(g) 1件当たり助成金額

10～20万円

(h) 助成期間

2018年6月から2019年5月

(i) 募集期間

2018年4月2日～5月7日

(2) 応募状況

本年度は、32件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

- | | | | |
|------|----|------|-----|
| ・鳥取県 | 4件 | ・広島県 | 5件 |
| ・島根県 | 9件 | ・山口県 | 12件 |
| ・岡山県 | 2件 | | |

(b) 分野別

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 体験事業の開催 | 29件 |
| (2) 研究会等の開催 | 1件 |
| (3) 成果出版物の発刊・教材等の試作 | 2件 |
| (4) その他 | 0件 |

(3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成－科学技術振興関係－選考委員会（5月25日）において慎重に審査された結果、助成候補として15件が選出され、第33回理事会（6月4日開催）において報告されました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第34回) 2018年度	第33回 2017年度	第32回 2016年度
応募件数 (件)	32	21	31
助成件数 (件)	15	15	15
助成比率 (%)	47	71	48
助成金総額 (万円)	200	200	200

(地域別状況)

地 域	2018年度		2017年度		2016年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
鳥 取 県 (件)	4	2	0	0	0	0
島 根 県 (件)	9	3	7	3	9	4
岡 山 県 (件)	2	2	3	3	5	3
広 島 県 (件)	5	4	4	4	8	5
山 口 県 (件)	12	4	7	5	9	3
合 計 (件)	32	15	21	15	31	15

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

(分野別状況)

分 野	2018年度		2017年度		2016年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
(1) 体験事業の開催 (件)	29	14	20	15	27	14
(2) 研究会等の開催 (件)	1	0	1	0	4	1
(3) 成果出版物の発刊 ・教材等の試作 (件)	2	1	0	0	0	0
(4) その他 (件)	0	0	0	0	0	0
合 計 (件)	32	15	21	15	31	15

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

3. 第34回(2018年度)マツダ事業助成一覧 —科学技術振興関係—

事業名 ([]内は小・中・高生の参加者数)	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
岡山大学農学部ジュニア公開講座 参加者(総人数) 30名 [内、生徒 15名] 講演2	岡山市	木村 康二 岡山大学大学院 教授	2018/07/28 ~ 2018/07/29	15
「コマの不思議」を題材とした小学生の科学体験出前講座 参加者(総人数) 600名 [内、生徒 400名]	米子市	山口 顕司 米子工業高等専門学校 教授	2018/06/01 ~ 2018/12/28	11
夏休みは公民館に行こう! ~地域での科学体験教室の実施~ 参加者(総人数) 250名 [内、生徒 210名]	下関市, 岩国市	岡田 秀希 山口大学工学部 技術専門職員	2018/07/01 ~ 2018/08/31	12
地域発・課題探求型授業「インキュベーションワーク」と連携したサイエンスショーと科学・工作教室 参加者(総人数) 950名 [内、生徒 790名]	呉市	山脇 正雄 呉工業高等専門学校 協働研究センター長	2018/05/19 ~ 2018/12/15	15
米子高専公開講座 動かして学ぶプログラミング入門 参加者(総人数) 20名 [内、生徒 10名]	米子市	松本 充 国立米子工業高等専門学校 技術専門職員	2018/08/18 ~ 2018/08/18	11
縦渦により回転する不思議な風車の各種行事デモ用教材の試作 参加者(総人数) 1000名 [内、生徒 500名]	呉市	野村 高広 呉工業高等専門学校 准教授, 教育主任	2018/06/01 ~ 2019/05/31	15
歩行ロボットを作って、物理を探ろう 参加者(総人数) 60名 [内、生徒 30名]	松江市	土師 貴史 松江工業高等専門学校 講師	2018/04/01 ~ 2019/03/31	10
ハイブリッド型掃除機を作ろう 参加者(総人数) 70名 [内、生徒 50名]	松江市	市川 和典 松江工業高等専門学校 准教授	2018/07/01 ~ 2018/12/31	10
第3回 広島ジュニアサイエンスフェア 参加者(総人数) 500名 [内、生徒 300名] 講演1	広島市	くや みつお 広島干潟生物研究会 事務局長	2019/01/06 ~ 2019/01/06	15
はなれたところに力をつたえよう ~空気圧と油圧のふしぎ~ 公開講座の開催 参加者(総人数) 40名 [内、生徒 20名]	周南市	井本 琢哉 徳山工業高等専門学校教育研究支援センター 技術専門職員	2018/06/01 ~ 2018/11/30	11
第9回山陽小野田市かがく博覧会~小学校、中学校、高等学校、大学、企業が集う科学の祭典~ 参加者(総人数) 3800名 [内、生徒 2500名]	山陽小野田市	北條 信 山陽小野田市立山口東京理科大学 工学部 教授	2018/09/29 ~ 2018/09/30	15
故郷の美しい自然現象を科学する~三次の霧はどのようにしてできるのだろう 参加者(総人数) 40名 [内、生徒 20名]	三次市	寺重 隆視 特定非営利活動法人 三次科学技術教育協会 専務理事	2018/09/01 ~ 2018/11/30	15
みんな集まれ!『しゅうニャン橋守隊』と橋や道路でワクワク土木土木(ドキドキ)体験 参加者(総人数) 150名 [内、生徒 40名] 講演1	周南市	海田 辰将 徳山工業高等専門学校 准教授	2018/06/01 ~ 2019/05/31	15
バーチャルリアリティを体験:スマホとダンボールメガネを使って360度ぐるっと見てみよう 参加者(総人数) 16名 [内、生徒 16名]	松江市	稲葉 洋 松江工業高等専門学校 准教授	2018/08/01 ~ 2018/12/31	15
小学生向けモノづくり体験型出前授業 ~電子ルーレットおよび電子オルガンの作製~ 参加者(総人数) 200名 [内、生徒 170名]	津山市	西尾 公裕 津山工業高等専門学校 教授	2018/07/30 ~ 2018/11/30	15
合計		15件		200万円

I-3. 科学わくわくプロジェクト

(1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学等が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取り組むブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有しています。

- ・現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・財団と大学の連携事業である。
- ・多様な事業で構成される複合的な事業である。
- ・教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待される。

(2) 連携先

科学わくわくプロジェクト実行委員会

委員長：比治山大学現代文化学部 林 武広 教授

(3) 主要事業

- ① サイエンスレクチャー（中高生を対象とした出張・出前型講座；要請により可能な範囲で社会人等も対象とする）

第1回：2019年2月27日（広島大学附属東雲中学校 3学年 80名）

- ・講師：広島大学 植村 誠 准教授
- ・テーマ：「最新の宇宙研究について」

第2回：2019年3月19日（安田女子高等学校 1、2学年 80名）

- ・講師及びテーマ

広島大学 大杉 節 名誉教授（最新の科学の話題—放射線・放射能）

広島大学 川端 弘治 教授（最新の科学の話題—宇宙）

広島大学 網本 貴一 准教授（最新の科学の話題—薬の科学）

比治山大学 林 武広 教授（最新の科学の話題—土砂災害）

- ② ジュニア科学塾（理科好きの中学生が高度な科学内容を学ぶことを通して先端的科学への関心を高め、学ぶ意欲を育む集中講義）

～年間テーマ「理論と観察・実験」

第1回：2018年6月24日（広島大学東千田校舎）

- ・講師：広島大学 網本 貴一 准教授
- ・テーマ：「化学の理論編—分子模型を使って考える物質の構造、反応、性質」（11名）

第2回：2018年7月22日（広島大学教育学研究科化学実験室）

- ・講師：広島大学 網本 貴一 准教授
- ・テーマ：「化学の実験—アスピリンの合成とパファリン、高分子合成、ナイロン又はPETの合成、酵素の働き」（12名）

第3回：2018年8月5日（広島大学東千田校舎）

- ・講師：広島大学 大杉 節 名誉教授
- ・テーマ：「理論と実験—現代を生き抜くための放射線・放射能の基礎知識」（12名）

第4回：2018年9月16日（広島大学東千田校舎）

- ・講 師：広島大学 富川 光 准教授
- ・テーマ：「生物の理論編—海洋に生息するさまざまな生き物について知ろう」（11名）

第5回：2018年10月21日 （広島大学教育学研究科生物実験室）

- ・講 師：広島大学 網本 貴一 准教授
- ・テーマ：「生物の実験編—瀬戸内海の海の恵みについて考えてみよう」（9名）

第6回：2018年11月24日 （広島大学東広島天文台）

- ・講 師：広島大学 川端 弘治 教授
- ・テーマ：「理論と実験—電磁波、光、宇宙の探求」（7名）

③理科ひろば（小中学校理科授業充実のための教員支援としての、小学校高学年理科出前示範授業及び現職教員研修）

- ・講 師：比治山大学現代文化学部 林 武広 教授
比治山大学現代文化学部 山田 耕太郎 准教授
富山大学人間発達科学部 土井 徹 准教授
インドネシア セマラン国立大学 藤川 義範 講師

・テーマ：授業実践講座または模擬授業

- ・内 容：（5年生）「流水の働きと土石流、津波」「地震防災」「プログラミング」計32学級
（6年生）「月と太陽」「プログラミング」計37学級

・今年度実施：広島市内・広島県内の小学校 23校70学級（対象児童数2,000名）

広島市教育委員会と連携する（実施校は、広島市教育委員会が希望校を募り、その後の調整と協議によって選定する）。

学校から依頼があれば、可能な範囲でそれに応じる。

(4) 実施額 100万円

Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要

Ⅱ-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第34回(2018年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

工業化社会、情報化社会の著しい進展による社会環境の変化は、国民の社会生活に多様な影響を及ぼしています。中でも青少年の健全な心身の発達を阻む面のあることを認めざるを得ません。こうした青少年の健全な育成への支援を通して、心豊かに生きることの出来る社会の実現を願い、そのためのすぐれた研究に対し、一助として費用の一部もしくは全額を助成します。

(b) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究を対象とします。

対象研究分野：①青少年をとりまく環境 ②コミュニティづくり ③ボランティア育成 ④科学体験

⑤前各号に類する分野

(c) 募集方法	公募
(d) 助成金総額	400万円
(e) 助成件数	5～6件
(f) 助成期間	1年または2年
(g) 募集期間	2018年4月16日～6月29日

(2) 応募状況

締め切りまでに34件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・中部以東	19件(56%)
	・関西以西	15件(44%)
(b) 分野別	・青少年をとりまく環境	22件(65%)
	・コミュニティづくり	2件(6%)
	・ボランティア育成	1件(3%)
	・科学体験	4件(11%)
	・前各号に類する分野	5件(15%)

(3) 助成対象の選出

選考委員会(7月24日)において慎重審議の結果、助成候補として6件が選出され、第35回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成金贈呈書の贈呈

2018年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第34回) 2018年度	第33回 2017年度	第32回 2016年度
応募件数(件)	34	32	39
助成件数(件)	6	6	7
助成比率(%)	18	19	18
助成金総額(万円)	400	400	500

(地域別状況)

地域	2018年度		2017年度		2016年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東(件)	19	4	14	3	20	3
近畿(件)	2	0	6	1	5	1
中国・四国(件)	10	2	8	0	7	2
九州・沖縄(件)	3	0	4	2	7	1
合計(件)	34	6	32	6	39	7

(左側数字:応募件数, 右側数字:助成件数)

(分野別状況)

分野	2018年度		2017年度		2016年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
青少年をとりまく環境(件)	22	4	19	2	21	3
コミュニティづくり(件)	2	1	5	1	5	2
ボランティア育成(件)	1	0	2	1	5	1
科学体験(件)	4	0	4	2	3	0
前各号に類する分野(件)	5	1	2	0	5	1
合計(件)	34	6	32	6	39	7

(左側数字:応募件数、右側数字:助成件数、分類は審査時)

3. 第34回(2018年度) マツダ研究助成一覧 – 青少年健全育成関係 –

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
<p>必修化されたダンス表現における創作メカニズムの解明とその支援手法の提案：他者との交流に着目した検討</p> <p>本研究では、必修化されたダンス授業における創作支援の手法の提案を目指す。2012年より義務教育に導入された「現代的なリズムのダンス」では、その主目的である生徒の創作体験を支援する具体的・科学的手法は十分に提案されておらず、ダンス経験の少ない体育科教員の試行錯誤に基づいた指導（主に振り付け指導）が行われているのが現状である。本研究では、他者との交流に着目し、創作支援の具体的手法の提案を目指した。特に他者の表現の理解・解釈が重要であると考え、それらに多様性をもたらす手法を提案する。</p>	<p>清水 大地 東京大学大学院教育学研究科 特任助教</p>	60
<p>高等学校におけるセクシュアル・マイノリティの生徒への支援に関する調査研究</p> <p>研究代表者と共同研究者は、我が国の小学校と中学校におけるセクシュアル・マイノリティ支援の実態と課題を全国調査によって明らかにしてきた。本研究では、学校住所録から無作為抽出した全国の高等学校1600校を対象に質問紙調査を実施することによって、我が国の高等学校におけるセクシュアル・マイノリティ支援の実態と課題を明らかにする。これまでの研究成果と統合することで、本研究からは、学校におけるセクシュアル・マイノリティへの支援の充実に向けた具体的で実践的な知見が得られる。</p>	<p>本多 明生 静岡理工科大学情報学部 准教授</p>	55
<p>乳幼児期子育てにおける「こどもの憤怒・反抗」に対峙する養育者への支援</p> <p>子育て中の母親が孤立する現代的な理由の1つに、青年期精神発達の未熟性から子供や自分の怒りを回避する群の増加がある。研究代表者らは自らの怒りに向き合い表現することが、孤立状態から脱し主体性や自尊心を取り戻すのに寄与するのをこれまでに見出してきた。本研究ではそれらの知見を活かし、乳幼児期子育ての中で困難を感じながらも不必要に孤立している青年期心性の強い母親たちを支援に繋ぎ、同時に精神的成熟に導くプロセスを「怒り」の視点から描くことを目的とし、複数事例研究及び実験的事例研究を行う。</p>	<p>大橋 良枝 聖学院大学心理福祉学部 教授</p>	90
<p>地域の資源を活用した問題発見・解決型「木育」プログラムの開発</p> <p>小学校においては感染症が発生した際、学級閉鎖等を行うことで感染拡大防止対策を行うことが出来る。しかし学級閉鎖措置を受けた小学生は潜伏期間の危険性があるにもかかわらず、長時間の学童保育を利用しないといけないのが現状である。そこで我々の研究班では学童を利用する児童が感染症から自分で身を守るために必要なエビデンス（科学的根拠）を身につけることを目的とした感染症予防教育を行い、その効果、継続性を検証する。また教育の一つの効果として子から親への教育情報伝搬効果を検証する。</p>	<p>木村 彰孝 広島大学大学院教育学研究科 准教授</p>	80
<p>学童に対する感染症予防教育の効果検証</p> <p>小学校においては感染症が発生した際、学級閉鎖等を行うことで感染拡大防止対策を行うことが出来る。しかし学級閉鎖措置を受けた小学生は潜伏期間の危険性があるにもかかわらず、長時間の学童保育を利用しないといけないのが現状である。そこで我々の研究班では学童を利用する児童が感染症から自分で身を守るために必要なエビデンス（科学的根拠）を身につけることを目的とした感染症予防教育を行い、その効果、継続性を検証する。また教育の一つの効果として子から親への教育情報伝搬効果を検証する。</p>	<p>大浦 麻絵 札幌医科大学医学部 助教</p>	60
<p>小中学校の通級指導教室における発達障害児のための空間的配慮に関する研究</p> <p>障害者差別解消法の施行によって、公的機関での合理的配慮の提供が義務となり、発達障害を持つ児童生徒が通常学級に在籍しながら個別の支援を受ける通級指導教室の設置が急速に広がっている。しかし、多くは空き教室を利用した設置で、通級指導のための空間整備基準は定められておらず、発達障害への対応は試行錯誤の段階である。本研究は、現在設置されている通級指導教室の指導内容と空間の使い方を調査することによって、通級指導教室に必要な建築空間的条件を明らかとし、設備空間ガイドラインの作成を行う。</p>	<p>佐々木 伸子 福山大学工学部 准教授</p>	55
合 計	6件	400万円

Ⅱ－２．市民活動支援

1．募集・応募・選出状況

第34回(2018年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

(1) 募集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

- | | |
|--------------|--|
| (a) 対象活動 | 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動
①自然とのふれあい ②ボランティア育成 ③地域連帯
④エコ ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり |
| (b) 募集地域 | 広島県、山口県 |
| (c) 支援期間 | 単年度支援 2018年4月1日～2019年3月31日の1年間 |
| (d) 支援金総額 | 800万円 |
| (e) 1件当り支援金額 | 10万円～50万円 |
| (f) 募集期間 | 2017年10月10日～2018年1月12日 |

(2) 応募状況

締切日までに99件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- | | |
|---------|---|
| (a) 地域別 | ・広島県（広島市を除く） 34件(34%)
・広島市 39件(40%)
・山口県 26件(26%) |
| (b) 分野別 | ・自然とのふれあい 20件(20%)
・ボランティア育成 11件(11%)
・地域連帯 42件(43%)
・エコ 0件(0%)
・国際交流・協力 15件(15%)
・科学体験・ものづくり 11件(11%) |

(3) 支援対象の選出

選考委員会（2018年2月13日、14日開催）での審議の結果、支援候補として、総計30件800万円が選出され、2018年3月16日開催の第32回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・広島県 2018年4月19日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の22団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・山口県 2018年4月24日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の8体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および支援件数)

	本年度(第34回) 2018年度	第32回 2017年度	第31回 2016年度
応募件数 (件)	99	110	119
支援件数 (件)	30	32	33
支援比率 (%)	30	29	28
支援金総額 (万円)	800	800	875

(地域別状況)

地域	2018年度		2017年度		2016年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
広島県 (件)	34	12	49	15	47	15
広島市 (件)	39	10	38	10	44	13
山口県 (件)	26	8	23	7	28	5
合計 (件)	99	30	110	32	119	33

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

(分野別状況)

分野	2018年度		2017年度		2016年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
自然とのふれあい (件)	20	6	19	4	22	2
ボランティア育成 (件)	11	6	14	5	13	1
地域連帯 (件)	42	14	58	19	57	25
エコ (件)	0	0	4	1	7	1
国際交流・協力 (件)	15	2	8	2	11	1
科学体験・ものづくり (件)	11	2	7	1	9	3
合計 (件)	99	30	110	32	119	33

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

3. 第34回(2018年度) マツダ市民活動支援一覧 - 青少年健全育成関係 -

活 動 名	団 体 名	地域	金額 (万円)
ぼくたちの道しるべ～違っていたでもいいんだよ～自閉症スペクトラムの子どもの得意を生かす子育て【家庭療育を進めるプロジェクト】	発達障害親の会 *PEACCH*	広島市	20
安芸太田町の自然フィールドを使った体験学習	一般社団法人ソーシャルデザインマネジメント	広島県 山県郡	15
パイオニアキャンプ2018夏	広島アウトドア研究会	広島市	35
鹿ヶ谷ふれあい広場の整備と活用	NPO法人里山環境保全みどり会	広島市	30
「地域全体で子育て・親育ち応援!!」 ～地元を愛し、お互いに元気になろう～	府中町家庭教育支援チーム「くすのき」	広島県 安芸郡	24
奥安芸の鉄物語 紙芝居&体験活動	奥安芸の鉄物語たたら楽校実行委員会	広島市 山県郡	30
地域活動活性化と青少年のボランティア育成	鞆の浦の共生を実行する会	広島県 福山市	15
お母さん、見守って！私たちでできるから！こどもたちで創るこども食堂	しもJOY	広島県 広島市	25
美鈴恵みの森づくりボランティア	美鈴恵みの森づくりボランティア	広島市	10
～未来をつくる子ども達に贈る～自然の中で、共に楽しみ学ぶ！ ネイチャーファシリテーター養成講座	NPO法人 三段峡-太田川流域研究会	広島県 山県郡	40
環境教育研究部会「もりメイトキッズ」	特定非営利活動法人 もりメイト倶楽部H i r o s h i m a	広島市	18
「瀬戸内・地魚学ぶんジャー」 ～さかなを学んで学生ボランティアリーダー育成～	一般社団法人 ふるさと楽舎	広島市	40
「未来をつくる地域リーダープロジェクト」 ～高校生と考えるまちづくり～	特定非営利活動法人 昭和地区まちづくり協議会	広島県 呉市	20
より好い地域社会を創る次代の理工系人材の育成実践	ロボット・ドリーム研究会	広島県 三原市	35
循環型の地域発信	特定非営利活動法人 フリースクール木のねっこ	広島市	35
ブッポウソウ保護活動ボランティアの育成	めんがめ倶楽部	広島県 三好市	12
子どもから高齢者まで誰もが来れる地域の居場所づくり	笑顔つながり隊	広島市	45
被災の経験と教訓を通じて学ぶ「若者の地域カスカル」育成講座	若者活動サポートセンターあおぞら	広島市	25
日本語教室開催を通じた異文化交流と日常生活サポート	府中町日本語教室ボランティアの会	広島県 安芸郡	16
教えて！赤ちゃん先生～わたしもあなたも大事な命～	ママの働き方応援隊 広島東校	広島県 福山市	25
芦田川きれい☆きれいプロジェクト「芦田川 水辺の学び舎」	芦田川環境マネジメントセンター	広島県 安芸郡	25
まちづくりイベント ーみんなで盛り上げ(AGA)ろう！ー	AGAIN&原小AGAIN	広島県 呉市	35
「くまげの美術室」設置事業	「くまげの美術室」実行委員会	山口県 周南市	25
「温故知新プロジェクト」：若い力で私達の街を国際学園都市へ発展させよう！	特定非営利活動法人 ワン・フォー・オール	山口県 宇部市	45
謎をといてお宝ゲット！お天気×防災 宝さがしゲーム	空みずきの会	山口県 山口市	40
いきりこ	玖珂町いきりこ保存会	山口県 岩国市	15
ぼくらはまちのプロデューサー	machi-mori	山口県 周南市	25
朗読劇とワークショップで交流しよう	下関リーディングの会	山口県 下関市	25
小学生の竹林体験学習サポート活動	竹林ボランティア俵山	山口県 長門市	15
神楽による青少年健全育成	創作風鎮神楽会	山口県 防府市	35
合 計	30件	800万円	〔 広島県 22件 575万円 山口県 8件 225万円 〕

Ⅱ－３．感動塾・みちくさ

感動塾・みちくさの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、平成10年度から実施しています。

(2) 共同開催

(公財)広島市文化財団との共催。

(3) 開催場所・開催日等

① 広島市青少年野外活動センター

・2018年8月17日～8月19日

・テーマ：「再発見！空と大地の不思議と魅力」

・ねらい 豊かな自然に親しむとともに、期間を通して初対面の友だちやスタッフと寝食を共にすることにより、協調性・自主性や思いやりなどを養う。

自然観察を通して、自然の事物・現象について理解を深め、自然科学分野への興味関心を喚起する。

・参加者：小学3～4年生 64名

② 広島市三滝少年自然の家

・2018年8月21日～8月23日

・テーマ：「ふしぎ 発見 感動体験 ～光とエネルギー～」

・ねらい 身近なものからテーマを選び、実験・観察、工作などの直接体験を通して、自然や科学技術に対する興味・関心を高める。

集団宿泊活動を通し、互いに協力することや相手を思いやることの大切さに気付かせる。

・参加者：小学4～6年生 47名

③ 広島市似島臨海少年自然の家

・2018年8月22日～8月24日

・テーマ：「塩と潮の不思議」

・ねらい 実験等を通して、科学への関心を高めるとともに、科学的な見方や考え方を養う。

似島の海を舞台に自然に親しみ、自然に対する興味を深めるとともに、自然現象を科学的に捉える。また、自然と人間との関係を考える。

集団生活において必要なコミュニケーション能力を習得する。

・参加者：小学4～6年生 52名

(4) 実施額

130万円(マツダ財団負担分)

II-4. スタートラインプロジェクト

スタートラインプロジェクトの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「スタートラインプロジェクト」は、被虐待児等の自立を支援することを目的とした事業です。子どもシェルター「ピピオの家」（緊急避難場所）および「はばたけ荘」（自立援助ホーム）を開設・運営しているNPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実等を支援する事業を、平成25年度から実施しています。

(2) 連携先

特定非営利活動法人ピピオ子どもセンターとの連携。

(3) 主要事業

被虐待児等に対する学習支援や就職・自立の支援、また、スタッフ・ボランティアスタッフのスキルアップのために、研修への参加や養成講座の開催等に対する支援を行った。

① 被虐待児等の成長を支援するプログラム

- ・実施概要：「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者に対する、マネー講座、図書購入、就業活動のための費用支出、自立支援のための支出、誕生会やクリスマス会などの行事の開催などを行った。
- ・対象者：今年度の「ピピオの家」の入居者 6名、「はばたけ荘」の入居者 5名

② スタッフの能力開発を支援するプログラム

「第7回NPO法人ピピオ子どもセンターボランティアスタッフ養成講座」

- ・実施概要：スタートラインプロジェクト実行委員会（ピピオ子どもセンター・マツダ財団）として、以下のとおり共催した。

2018年6月 6日	ガイダンス及び子ども担当体験報告
2018年6月13日	居場所のない子どもたちの実情
2018年6月20日	居場所のない子どもたちとの関わり方
2018年6月27日	虐待のある環境で育つ子どもの実情
2018年7月 4日	「ピピオの家」「はばたけ荘」って、どんなところ？
2018年7月11日	シェルターに関わる法制度（民法、児童福祉法など）
2018年7月18日	子どもとの関係づくりについて
2018年7月25日	発達に障害がある子への接し方

- ・参加者：22名が受講。

このうち21名が全8講を修了し、さらにこのうち18名が、相談・面接を経て、ピピオのボランティアスタッフとして登録した。

その他、ピピオ子どもセンターの実施する以下の活動を支援した。

- 2018年10月20日～21日 子どもシェルター全国ネットワーク会議2018（東京）参加
- 2018年11月30日～12月1日 日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）第24回学術集会岡山大会参加

③ 活動基盤の充実

広報誌・ホームページの活用による広報活動の充実、調査・分析・活動結果の体系的整理等を通じての知見の普及や社会還元を図る等の普及活動、外部団体との連携強化を行った。

(4) 実施額

100万円（マツダ財団負担分）

I. 科学技術振興に関する活動の概要

I-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第34回(2018年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

(b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③化学系材料、④物理系材料の4分野に係わる先進的・独創的な研究。

(c) 募集方法

公募

(d) 助成金総額

3,100万円

(e) 助成件数

31件 (1件あたり100万円)

(f) 助成期間

1年または2年

(g) 募集期間

2018年4月16日～5月31日

(h) マツダ研究助成奨励賞

マツダ研究助成対象の中から若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした研究に対して授与する。

① 副賞(追加助成金)

50万円/件

② 追加助成金総額・件数

200万円、4件

(2) 応募状況

締切りまでに合計406件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

・中部以東 235件(58%)

・関西以西 171件(42%)

(b) 分野別

・機械 88件(22%)

・電子・情報 86件(21%)

・化学系材料 124件(30%)

・物理系材料 108件(27%)

(c) 若手研究者(35才以下)

151件(37%)

(3) 助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会(7月27日、28日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として31件、研究助成奨励賞候補として4件が選出され、第35回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成贈呈書の贈呈

2018年10月に申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

II-6. 大学寄付講義の実施概要

マツダ財団の寄付講義は、1995年に開始しました。社会人として必要な視点・能力の醸成に寄与すべく、実際の社会の仕組みを理解するとともに、現在の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点によりとらえ、これから必要とされる「柔らかな社会（社会の不足部分を人と人との支えあいで補う）」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて、次世代を担う学生と共に考える「双方向」の講義を目指しています。

(1) 「ボランティア活動」開講の経緯

マツダ財団では、1998年より、当時の(財)広島市ひと・まちネットワーク（現、(公財)広島市文化財団）と共催で、「感動塾・みちくさ」を開催しています。これは、小学生に創意工夫させ、感動を体験してもらう合宿事業で、このような事業の実施には、プログラムの円滑な推進と子どもたちの活動を手助けするためのボランティアによる支援が欠かせません。加えて、特に大学生などの若い世代において、社会の仕組みを理解し、柔らかな社会を担っていけるような人材を育成したいとの強い思いもあり、本講義「ボランティア活動」が生まれました。

2000年度からは、(一社)教育ネットワーク中国のお力添えを賜り、「単位互換科目」として、2年ごとに開講大学を替えながら、広く県内の大学生に受講していただいています。

(2) 本講義の目標と特色

本講義は、集中講義とボランティア実習を組み合わせた構成としています。まず、集中講義でボランティア活動に必要な基本的知識や方法を学び、その後、実際にボランティア活動を実践することで、活かした知識・方法を身に付け、自ら感動を体験してもらいたいと考えています。

(3) 講義の概要

①集中講義

日時：2018年5月19日(土)、26日(土)、9:00～16:10（4コマ×2日間）

場所：広島女学院大学(広島県広島市東区牛田東4-13-1)ソフィア2号館2階202教室

講師所属機関：・ひろしま市民活動ネットワークHEART to HEART、・NPO法人IMAGINUS、
・比治山大学、・NPO法人ANT-Hiroshima、・NPO法人これからの学びネットワーク

②ボランティア実習

各自でボランティア実習先を探し、夏休みなどを利用して実施

<実習の条件>

- ・ 期間は6/1～8/31の間。
- ・ 実働30時間以上、あるいは2泊3日以上であること。
- ・ 小・中学生とのふれあいのあるボランティア活動。

③レポート課題

2018年9月末日までに、レポート（活動参加報告書）とボランティア参加「証明書」を、マツダ財団へ電子メールで提出。

④実績

36名が11か所の事業所や施設でボランティアを実施。

II-7. 若者×ツナグバ

(1) 内容

「若者×ツナグバ」は、高齢化社会や格差社会が進む状況下で、青少年の最終ステージともいえるべき「社会人になる直前の若者」「社会に出て間がない若者」が、今の社会に希望を持ち、自立していくことを支援する事業です。若者一人ひとりが、社会情勢を正しく認識したうえで、多様な考え方から自分が納得のできる生き方を見つけ、その潜在能力を高め、選択肢を増やし、希望につなげていくことを目的としています。そのために「対話」「表現活動」「居場所づくり」等の活動を市民活動3団体との連携によって進めています。

(2) 主要事業

本年度は、「特定非営利活動法人 ほしはら山のがっこう」(三次市)、「特定非営利活動法人 三次おやこ劇場」(三次市)、「府中町地域活動青年団体 志楽蝶」(府中町)の3団体との連携2年目でした。

① ほしはら山のがっこう「中高生～20代向け カフェイベント」

- ・2019年2月11日、三次市内のショッピングセンターみよしCCプラザでカフェイベントを開催しました。10代～20代の若者自身が「居場所ってなんだろう」というテーマにふれ、自分たちで考える機会を提供するため、NPO法人カタリバより講師をお招きし、講演を行いました。また地元の若者代表者とのトークセッションを通して、当事者感覚で考える会とし、中高生が気軽に立ち寄れるように、ボードゲームもできる場としたことで、ある程度の人が集まり、「居場所」について考えるきっかけづくりを行うことができました。
- ・参加者36名。

② 三次おやこ劇場「Folks Tea Booth 自分の手で居場所をつくろう！」

- ・KADOYAからDASAIYAへの移転で、スケジュールが大幅にずれましたが、1/26に念願の手作り石窯が完成しました。若者がいつでも立ち寄ることができ、本音で自由に語り合える場所、自分らしさを取り戻す場所として、読み聞かせ、スイーツづくり、洋裁教室・手仕事、みずあそび、哲学カフェ、農業体験、忍者修行等を行ってきました。3人の若者を中心に、小さな子供やママたちとの触れ合いで不登校やひきこもりが改善されました。・石窯作り等のべ参加者268名。

③ 志楽蝶「府中町に若い風を」

- ・府中町を盛り上げようと結成された若者の団体で、府中町で行われる行事へ積極的に参加し貢献しています。「府中音楽フェスティバル」への参加(8月)や「府中町立府中中学校」での講義、「鹿籠祭り」への参加(10月)、「ヒューマンフェスタ」への参加(12月)くすのきプラザ「成人式」への参加(1月)等を行いました。また、団体のオリジナルキャラクターであるツバキマンの公式twitter開設やグッズ製作も行いました。
- ・2018年は、府中町も豪雨災害での被害は甚大でした。そこで、府中町復興ボランティアに5名で参加し復興支援を行いました。災害に対する独自の取組みとして、ツバキマンの公式twitterやブログを駆使し被害状況や注意喚起を行ったところ、状況解説をまとめた記事には約1万8千ものアクセスがありました。
- ・若者の居場所であり活動拠点でもある志楽蝶BASEに手作りのバーカウンターを作ったことで、メンバー間の会話がより深いものとなりました。

(3) 実施額

150万円(マツダ財団負担分)

Ⅲ. 管理事項の概要

Ⅰ. 役員等に関する事項

1. 平成31年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理 事 長	代表理事	非常勤	小 飼 雅 道	マツダ株式会社 代表取締役会長
専務理事	代表理事	非常勤	吉 原 誠	マツダ株式会社 常務執行役員
常務理事	業務執行理事	常 勤	山 内 真	公益財団法人マツダ財団 事務局長
理 事		非常勤	上 田 宗 岡	上田宗箇流 家元
理 事		非常勤	香 川 寛 治	公益財団法人広島市文化財団 常務理事
理 事		非常勤	岡 谷 義 則	株式会社中国新聞社 代表取締役社長
理 事		非常勤	高 橋 超	学校法人比治山学園 理事
理 事		非常勤	平 谷 優 子	弁護士
理 事		非常勤	山根 八洲男	広島大学 特任教授

(五十音順・敬称略)

監 事		非常勤	高 橋 義 則	公認会計士
監 事		非常勤	前 田 真 二	マツダ株式会社 財務本部本部長

(五十音順・敬称略)

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター 代表理事
評 議 員		非常勤	大 杉 節	広島大学宇宙科学センター 特任教授
評 議 員		非常勤	越 智 光 夫	広島大学長
評 議 員		非常勤	河 原 能 久	広島大学大学院 工学研究科長・工学部長
評 議 員		非常勤	小 柴 是 睦	公益財団法人中国電力技術研究財団 専務理事
評 議 員		非常勤	佐 藤 次 郎	一般財団法人日本語教育振興協会 理事長
評 議 員		非常勤	竹 林 守	マツダ株式会社 名誉相談役
評 議 員		非常勤	堤 宏 守	山口大学工学部長、大学院創成科学研究科長
評 議 員		非常勤	中 村 健 一	県立広島大学長
評 議 員		非常勤	長尾 ひろみ	公益財団法人広島県男女共同参画財団 理事長
評 議 員		非常勤	農 沢 隆 秀	マツダ株式会社 技術研究所 技監
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学名誉教授
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社 相談役

(五十音順・敬称略)

2. 役員等の異動状況

- ・金井 誠太氏は平成30年6月21日に理事を辞任し、小飼 雅道氏が平成30年6月21日に理事に就任した。
- ・進士 正人氏は平成30年6月21日に評議員を退任し、堤 宏守氏が平成30年6月21日に評議員に就任した。

Ⅱ. 職員に関する事項

役職名	名 前	主たる担当職務
事務局 局長	山内 真	・事務局統括
事務局 局長代理	井上 紀文	・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・事業計画・収支予算の策定及び財務・会計に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
事務局 局長代理	横山 孝	・理事会、評議員会等の運営に関する事項 ・広報等に関する事項
事務局	六鹿 彰吾	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項
事務局	浅原 真実	・財務・会計に関する事項 ・講演会開催に関する事項

Ⅲ. 理事会・評議員会等、主な活動事項

(理事会)

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第33回理事会	平成30年6月4日	第1号議案 平成29(2017)年度事業報告及び決算承認の件 第2号議案 理事候補3名推薦の件 第3号議案 第13回評議員会招集に関する件 [報告事項] 1)2018年度科学技術振興関係事業助成の件 2)職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第34回理事会	平成30年6月21日	第1号議案 代表理事選定の件 第2号議案 理事長選定の件 第3号議案 業務執行理事及び常務理事選定の件 [報告事項] 公益法人の事業報告書等の提出書類	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第35回理事会 (決議の省略)	平成30年9月25日	第1号議案 第34回(2018年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 第2号議案 第35回(2019年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件 第3号議案 選考委員1名選出の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第36回理事会	平成31年3月22日	第1号議案 平成31(2019)年度事業計画及び収支予算承認の件 第2号議案 第35回(2019年度)市民活動支援対象(青少年健全育成関係)承認の件 第3号議案 選考委員13名選出の件 [報告事項] 1)職務執行の状況 2)中期事業計画	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(評議員会)

会議名	開催年月日	議事事項	会議の結果
第12回評議員会 (決議の省略)	平成30年4月2日	議案 理事1名選任の件	原案どおり承認可決
第13回評議員会	平成30年6月21日	第1号議案 平成29(2017)年度決算承認の件 第2号議案 理事3名選任の件 第3号議案 評議員13名選任の件 [報告事項] 1)平成29(2017)年度事業報告の件 2)平成30(2018)年度事業計画及び収支予算の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(当年度の主な活動 - 上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
第34回マツダ事業助成候補の募集	平成 30.4~5	科学技術振興関係
第34回マツダ研究助成候補の募集	30.4~5	科学技術振興関係
第34回(2018年度)青少年健全育成市民活動支援 贈呈書の贈呈	30.4~6 30.4.19、4.24	青少年健全育成関係 助成30団体に対し、贈呈書を贈呈
科学わくわくプロジェクト「サイエンスレクチャー」開催	31.2.27、3.19	広島大学等との連携事業
科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催	30.6.24、7.22、8.5、 9.16、10.21、11.24	広島大学等との連携事業
科学わくわくプロジェクト「小学校理科ひろば」 大学講義(広島女学院大学)	30.5.19、5.26	授業実践講座または模擬授業
平成30年度選考委員会(科学技術振興関係)	30.7.27、7.28	「ボランティア論」(広島県内単位互換科目)
平成30年度第2回選考委員会(青少年健全育成関係)	30.7.24	第34回マツダ研究助成対象の審議・選出
「感動塾・みちくさ」実施	30.8.17~8.20、 8.21~8.23、8.22~8.24	第34回マツダ研究助成対象の審議・選出 (公財)広島市文化財団と共催
第34回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	30.10~11	助成対象者に対し、贈呈書を贈呈
第35回(2018年度)青少年健全育成市民活動支援候補 の募集	30.10~31.1	広島県、広島市及び山口県の青少年健全 育成主管部門等を通じて告知
第37回講演会	30.11.21	講師：東儀 秀樹氏、演題：「雅楽の価値 観と僕の生き方、そして若者へ」
平成31年度第1回選考委員会(青少年健全育成関係)	31.2.18、2.19	第35回市民活動支援対象の審議・選出

IV. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項

宛先	申請等年月日	申請事項等
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成30.4.17	理事の変更の届出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成30.6.28	事業報告等の提出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成30.7.25	理事及び評議員変更の届出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成31.3.26	事業計画書等の提出

V. 登記に関する事項

登記先	登記年月日	登記事項
広島法務局	平成30.4.5	理事の変更登記 ・平成30年3月31日 魚谷 滋己氏 理事を辞任 ・平成30年4月2日 山内 真氏 理事に就任
広島法務局	平成30.7.5	理事、代表理事及び評議員の変更登記 ・平成30年6月21日 金井 誠太氏 理事を退任 ・平成30年6月21日 小飼 雅道氏 理事に就任 ・平成30年6月21日 下記2氏 理事を重任 山内 真、香川 寛治 ・平成30年6月21日 金井 誠太氏 代表理事を辞任 ・平成30年6月21日 小飼 雅道氏 代表理事に就任 ・平成30年6月21日 下記12氏 評議員を重任 安藤 周治、大杉 節、越智 光夫、河原 能久、小柴 是睦、 佐藤 次郎、竹林 守、中村 健一、長尾 ひろみ、農沢 隆秀、 吉田 総仁、渡辺 一秀 ・平成30年6月21日 進士 正人氏 評議員を退任 ・平成30年6月21日 堤 宏守氏 評議員に就任

VI. 附属明細書

平成30年度(2018年度)事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。